

EMERGING
STORIES

第2回

「Emerging Stories」とは？

その昔、アメリカに「Amazing Stories」という人気SF雑誌があった。未知の物体との遭遇、南海の孤島での信じられない一夜の話などを、読む者を引きこむ文章と独特の雰囲気を持った挿画で描き、人々を魅惑したものだ。

この連載では現代の「Amazing Stories」となって、人々が驚く現代のできごと、さらにそこから1歩先の世界を覗いた姿を描いていく。

Walkmanは、言うまでもなくSonyの登録商標である。ではWalkmanの一般名詞は？ 実はヘッドフォンステレオと言うそうだ。

さて、このヘッドフォンステレオの世界に革命が起ころうとしている……なんて大げさな前フリもいらなくらい、有名になってしまったMP3。だが、どこを間違ったか「MP3は21世紀のヘッ

つたのが、東芝が発表した世界最小のWindowsマシン「Libretto ff 1100」だ。

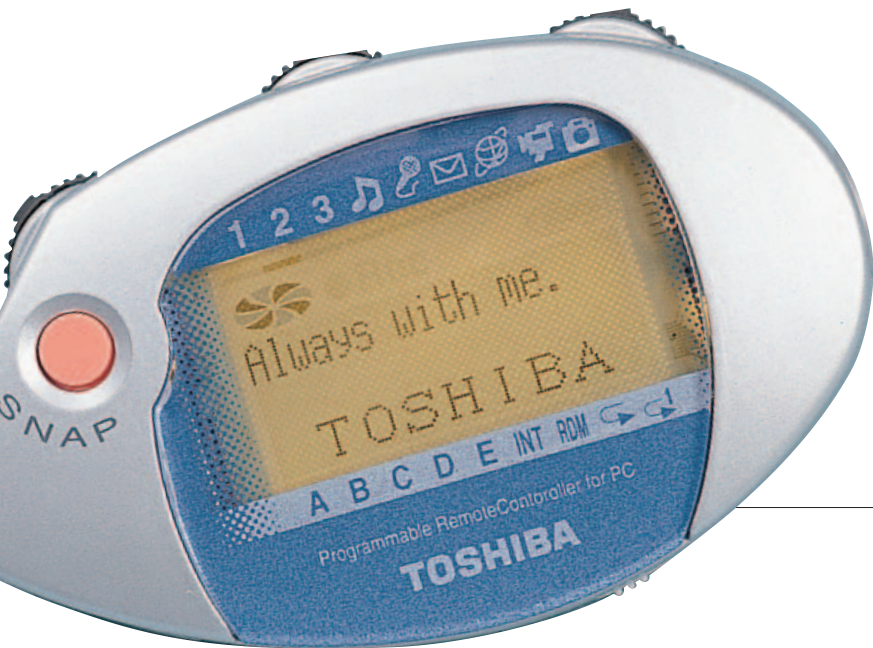
このマシン、C-MOSカメラという、つい話が脱線しそうな機能も付いているが、それはさておき今回注目したいのは「i-Shuttle」というリモートコントロール・ユニット。このリモコンで何がコントロールできるかというと、前出のC-MOSカメラと、そして当然、本体に収録したMP3のファイルである。

「i-Shuttle」は
未来のヘッドフォンステレオへ向ける第一歩

ドフォンステレオだ」なんてノー天気なことを言い始める人がいて、まったく困ったものである。

確かにカセットテープからCD、そしてMDとメディアが変わるたびに生きながらえてきたヘッドフォンステレオだが、それがスマートメディアとやらの半導体メモリーに置き換えられるだけで21世紀のマシンを名乗る、なんて未来は悲しすぎないか？ 未来はもっとダイナミックであって欲しい……そんなことを考えていたとき筆者の目にとま





▶ 東芝 Libretto ff 1100

「Dynabook」発売10周年記念モデルの1つとして発表されたもの。注目のリモコン「i-Shuttle」はアプリケーションの起動が可能なので、メールを受信し読み上げるといった動作も可能だ。スケルトンのキーボードもポイント。店頭価格は20万円前後の予定。
CPU：MMX Pentium/266MHz、メモリー（最大）：64MB（128MB）、HDD：3.2GB、ディスプレイ：7.1インチTFT、800×480、PCカード：PCカードType II×1 / スマートメディア、インターフェイス：USB/mini RGB/リモコンユニットi-Shuttle他、バッテリー：約2～3時間、幅×奥行×高さ：221×132×32mm、重量：980g

Jump www2.toshiba.co.jp/pc/catalog/ff/ff1100/

多くのポータブルMP3プレーヤーは32MB程度のメモリーしか持っていない。そのため収録できる音楽は、HiFiモードだとせいぜい130分程度。これに比べると3.2GBの容量を持つこのLibretto ffなら3000分！ と言いたいところだが、現実にはシステムへの割り当てもあるし、2GB程度で2000分がよいところだろう。だが、それでも桁外れの音楽ライブラリーを持って歩けることに変わりはない。

リブレットと言えば、ついこないだまではラタクの定番。何を好きこのんであんなちっちゃなキーボードを触らなきゃいかんのだ、などとぶつうのユーザーからは揶揄されるがままだったのだが、トレンドを読み切ったこの変身ぶり、大したものである……と予定調和的に褒めただけで終わらないのがこのコラムだ。

ここで大胆に言い切ってしまうと、ヘッドフォンステレオの進化はこうした大容量化だけにとどまらない。次に待っているのは、最近実用化に向けて動きがあわただしくなってきたワイヤレス環境技術「Bluetooth【注1】」の採用である。

Bluetoothは、電話やPDA、ノートパソコンといった10メートル程度の範囲内にある機器をネットワークして使うための無線技術で、現在考えら

れている規格では最大1Mbpsの転送スピードを持つという。

というわけで、実は「i-Shuttle」は多くのデバイスがBluetooth対応へと変身していくターニングポイントとなる、マイルストーンとして記録されるべきオブジェなのである。

LibrettoのBluetooth化が実現されれば、おそらくそのころには100連装CDクラスの音楽ライブラリーを鞆の中に入れてながら、Bluetoothで接続されたヘッドフォンで音楽を楽しむ、なんていう光景も普通になっているだろう。

そしてさらに言えば、そこで聞こえてくる音楽はBluetoothを介して送られるさまざまなデータ（たとえば、腕時計から送られてくる体温、脈拍、血圧といったデータやGPSからのロケーション情報）と音楽の好み等を記録したユーザーのプロファイルの組み合わせで生まれるダイナミックなパターンから自動的に選曲されたものになるはずだ。

さて、ここまで実現できれば、21世紀のヘッドフォンステレオと呼んであげよう。その日に向かって、ガンバレ、Libretto！

【注1】 Bluetoothについては本誌「Coo ILogic」（98年10月号P242）および「インターネット最新テクノロジー」（99年8月号P370）を参照。

VAIOの向こうに見えてきた 新しいデジタルTVの世界

家電メーカーにとって、パソコンは難題だった……いや、いまだに多くの家電メーカーにとっては大きな問題であるに違いない。

なぜならば、まず家電製品はそれぞれが目的のはっきりした「専用機」である。つまり、機能が明確で、メリットも分かりやすい。これを買えばどれだけ便利になるかを消費者にアピールするうえでも、さほど困ることはない。

一方、パソコンはコンピュータ、つまりソフトウェア次第でどのようにでもなる「汎用機」である。使い方次第で何でもできるはずだが、そのためにはいろんな周辺機器をそろえ、つなぎ合わせ、

使い方を覚える必要がある。当然、こうしたことは簡単ではないから、ユーザーがある特定の目的だけを望んだ場合、使い勝手

がいまいちの代物、というより、はっきり言って「機能が未熟で使いものにならない」とサジを投げられてしまうことが多々ある。

分かりやすいメリットを安価に実現することだけを考えてきた家電メーカーにとって、パソコンの持つ可能性をどのように解釈して、自社のラインナップに乗せていくか。この大問題への1つの回答が、ソニーのVAIO-Rシリーズ。そう言い切ってもおかしくないほどの迫力がこのマシンにはある。

地上波TVチューナー、ビデオ入力2系統 / 出力1系統、DV端子2系統……どう見てもビデオデッキのスペックだが、実はこれ、VAIOの仕様の一部なのだ。もちろんWindows98という皮を被ってはいるが、これはもうパソコンというよりユニバー

サル・ビデオマシンと考えたほうがよいかもれない。

現在3機種が発売されているRシリーズ。そのすべてが地上波TVチューナー付きMPEG2リアルタイム・エンコーダー、アナログビデオ入出力やi-LINK端子を持つほか、最高機種のR70では「メディアコンバーター」でアナログビデオをDVキャプチャーしたり、MPEG2で録画した内容をDV端子から出力したり、内蔵のCD-RWドライブでビデオCDを作成したり、さらに付属のソフト「Adobe Premiere 5.1J」でノンリニア編集までできてしまう。

これだけそろえば、家電からPC業界への挑戦的な回答としても申し分ない。だが、筆者の気になったのはユニバーサル・ビデオマシンとしてのVAIOがインターネットに接続されることで実現した、まったく新しい機能だ。

VAIOにはMPEG2リアルタイム・エンコーダーを使った「Giga Pocket」というビデオ録画機能がある。注目したいのは、このビデオ録画機能と内蔵の地上波チューナー、そしてインターネット経由で提供されるVAIO専用のEPG（Electronic Program Guide = 電子番組表）を組み合わせれば、従来とはまったく違ったTVの楽しみ方が可能になるという点だ。

もっとも単純な利用は、EPGで提供される番組表を見て番組を予約録画しておき、暇な時に見るというもの。もちろんこれまでのVTRでも可能だが、設定が簡単で再生時もスタートポイントを探したり、テープを巻戻したりという手間がいらぬ、さらに再生しながら同時に録画できるなど、デジタルメディアならではの多くのメリットがある。

さて、この機能をベースにすると、どういう世界が見えてくるだろう。

まず考えられるのが、EPGの精度が高くなってきた場合の展開だ。

EPGに番組の詳細な記述が盛り込まれたり、キーワードが設定されたり、登場するタレントの名前がカバーされるようになってくる。そうするとユーザーの興味や好みのタレント名を登録しておけば、自動的に興味のあるような番組を予約してくれるということも可能になる。

ユーザーが自らデータを入力しなくても、ウェブのブックマークからキーワードを抽出して自動的に登録しておいてくれるという機能も考えられる。暇な時間にスイッチを入れれば、自分の興味分野や好きなタレントの登場する番組をいつでも見られるということになりそうだ。

番組情報と映像データファイルがセットになった「ビデオカプセル」のアイコン。ひと目でわかり、カワイイ。



再生中



録画中



録画済み
(未再生)



録画済み



予約待機中



消去禁止



「有効期限」
付き



映像データ
消去済み

さらにユーザー数がある程度の規模に達すれば、EPGからマシンに番組予約データを取り込むという受動的な利用だけでなく、逆にユーザーがどのような興味を示しているかというデータをEPGからTV制作側にフィードバックし、これをもとに番組内容が変更される、ということだって起こり得る。

これまで、デジタルTVのメリットとして、画像クオリティーの向上と同時にチャンネル数の増加があげられてきた。しかし、一時期雨後の竹の子のように出てきたCSチャンネルのその後を見て、実際にそんな需要があるのかと訝しがっている人も多いという。

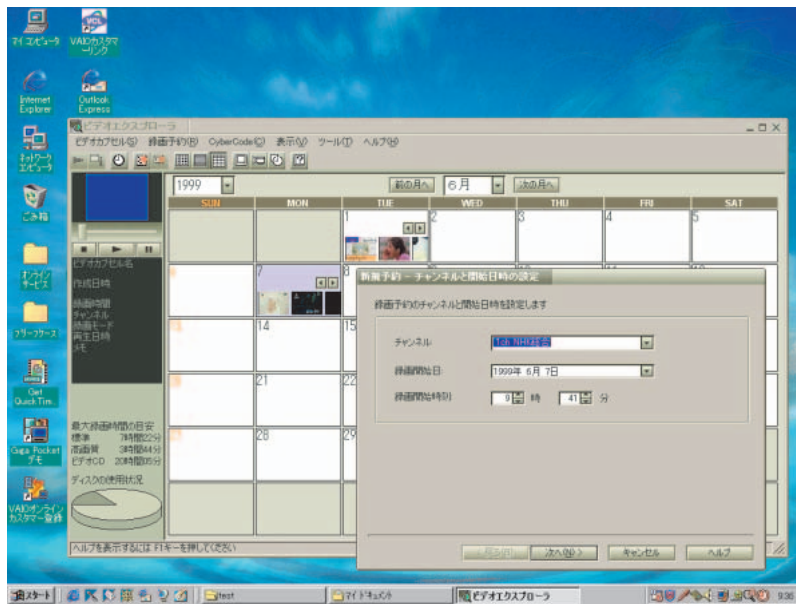
確かにそうだろう。忙しい現代人にとって、番組の放送時間に合わせてテレビの前にいるなんてことはもはや考えられないし、録画だって面倒に思うに違いない。本当のところ、他の多くのメディアがパーソナル化していくなかで、テレビとビデオだけがその動きから取り残されているのだ。このことに放送業界が気づかないかぎり、そしてユーザーの手元にあるTVシステムが非パーソナルな存在であり続ける限り、いくらデジタルTVの時代が来たところで、世の中は面白くならないだろう。

それを解決するためには、TVというメディア全体をパーソナル化していくしかない。見たいTV番組だけをちゃんと見たい。それを簡単に実現する新しいデジタルTV、パーソナルTVの原型がここにあるのだ。

Jump www.sony.co.jp/sd/ProductsPark/Consumer/PCOM/PCV-R/

▶VAIO PCV-R70

本文以外にもソニーならではのLINK端子他のインターフェイスに加えてPCカードスロットを採用。さらにシャーシ内部に拡張ベイ(5インチ)を設けるなど、機能性と拡張性は十分。これらの端子を本体前面に配置しているところも、AV機器をすべてVAIOに繋ごうというソニーらしい面だろう。
Pentium III 550MHz、メインメモリー(標準/最大)128MB/256MB、ハードディスク 約20GB、MPEG映像録画時間 高画質 約4時間24分 標準 約8時間41分 ビデオCD 互換 約23時間42分、DV映像記録時間 約70分。



「Giga Pocket」の予約機能「ビデオエクスプローラ」で番組の予約中。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp